

熊谷市民が 20年後の熊谷市役所を考える ワークショップ

第2回の様子

今回のワークショップでは、熊谷市にお住まいの18歳以上の方17名が参加され、活発な意見交換が行われました。

4つのグループにわかれ、熊谷市役所の現状と今後について課題だと感じていることや、将来の市役所についてのアイデア等について議論しました。最後には全体で議論した内容を共有し、ワークショップを終えました。

開催日	2024年11月16日(土)
会場	熊谷市役所
対象者	市内在住の18歳以上の方 17名
グループ	4グループ(各4～5名)



グループワークのテーマ

テーマ①:コンセプト

- 将来の庁舎では具体的にどのような活動や体験をしてみたいですか？

テーマ②:立地

- 立地案を比較する際の評価軸は十分ですか？案に対してご意見はありますか？

■テーマ②補足 | 立地案の評価(案)

評価軸	評価指標 (案)
広さ	敷地面積が大きく、容積を確保することができるか
事業期間	事業期間が短い (相対評価)
周辺自然環境	庁舎のまわりに緑地が多いなど豊かな自然環境である
シンボル性	市役所通りの突き当り
交通利便性	駅からの距離
駐車場(台数)	十分確保可能か
コスト	コストがかからないか

テーマ③:今後の進め方

- 今後の進め方についてご意見やご提案をお聞かせください。

ご意見

コンセプト

◆市民サービス

- 市民が提出しなくてはならない書類が多かったり、記入する箇所がわかりにくかったりする。もう少しシンプルに進めることができるとよい。
- 仕事関係の書類を揃える時に3つの庁舎を回らなくてはならないこともある。地元の人間でも大変だが、外部から来る人は戸惑うのではないか。仕事の効率アップのためにもワンストップで必要な部署に行けるとよい。
- 20年後の庁舎を考えるのであれば、AIの導入やオンラインが進むことを前提にし、市役所が担う役割や仕事が変わることを考えた方がよいと思う。ネットを使えない人は近隣の公民館などの公共施設でオンライン手続きしてもらえばよい。
- 各種手続きだけでなくオンライン化しても問題ないと思うが、相談や問い合わせなど、対面で話すことが大切なものもある。オンライン化しても不都合が出て、実施後何年かたって元に戻すこともありえる。どこまでの業務をオンライン化するかやオンラインから戻せる柔軟性の確保について検討する必要がある。
- 新しくできた深谷市役所は空間、案内などがわかりやすいので、市民サービスが向上していると感じられて好印象に繋がっている。熊谷の市庁舎でも動線、デザイン、案内のわかりやすさを検討してほしい。
- ワンフロアで見渡せる様なオープンなスペースが良いという意見が前回ワークショップで出ていたが、深谷市役所はフロアが長いので端から端まで行くのにだいぶ歩く必要があり、不便だという話を聞いた。
- 問合せや提案をした際の市の対応に融通が利かないと感じたことがあるので、他の市町にある「すぐやる課」の様に柔軟に対応してくれるとよい。

◆執務環境

- 将来的には市の職員が在宅勤務できる様になるのではと思うので、それを踏まえて執務スペースを考える必要があるのではないかな。
- 窓口業務が円滑に進んでいない状況や書類が山積みの机を見ると、要領が悪いと感じてしまう。事務を高度化していけば市民サービスも向上すると思う。高度化に取り組んでいる姿勢を示すだけでも市民の印象は変わってくるし、マネジメントをスムーズにすることに繋がるのではないかな。
- 深谷市役所はワンフロアになってから、怒鳴って苦情を言う人が減ったと聞いた。空間に余裕ができたので気持ちにも余裕ができたのかもしれないし、怒鳴ると目立つのでやらなくなったのかもしれない。空間が人に与える影響はあると思う。

◆魅力・熊谷らしさ

- バーチャルではなく、人が集まり触れ合うことで活気が生まれるので、パブリックビューイングや市場などのイベントや市民活動ができる機能が必要だと思う。例えば長岡市役所の屋根付広場の様な空間ができるとよい。
- 子育て世代は、熊谷は公園が多く広いので、遊具待ちをすることもないのが魅力だと言っていた。
- 新幹線が停まるのに魅力を感じ、リモートワークを考えて移住する人もいる。リモートワークをする人達はPCを使うことに慣れており、オンラインで様々な手続きができるのが当たり前のことになっていると思うので、移住を促進するためにもオンライン化を進めるのは大切だと思う。
- 市庁舎は市民サービス提供のための施設としてだけではなく、熊谷市のシンボルとして位置付けるべきだと思う。外から訪れた人も楽しめ、ゆっくりできる憩いの機能や市のPR機能も揃えた庁舎になるとよい。
- 来庁者も職員も留まることなく市庁舎内を移動できる動線、デザイン、案内のわかりやすさを検討してほしい。
- 人口の減少を食い止め、増やすためには熊谷の魅力をアピールすることも必要だ。暑さを逆手にとり、市庁舎は涼しげなデザインにし、涼しく快適に休める空間を整備することで、暑いけれどもこんな対策をしていると発信してはどうか。

◆広報・啓発

- ワールドカップが開催されたラグビータウンであることや日本一の全天候型グランドゴルフ場であるスポーツ文化公園があることをアピールし、スポーツ熊谷のイメージアップを図りたい。
- 熊谷市の歴史を伝え、熊谷人である熊谷次郎直実や荻野吟子をもっとアピールするために、博物館や展示コーナーを設けてほしい。外から訪れた人に興味を持ってもらえるだけでなく、市民にとっても自分のまちを知る機会になり、愛着に繋がると思う。
- 市庁舎の1階や窓口の順番待ちのエリアなどに、年間を通して「祭り」を感じられる展示コーナーを作れるとよい。「日本一快適な市庁舎から暑い街の熱い祭りの情報発信」という形でうちわ祭りをPRできれば、熊谷らしさが見える化して伝えられると思う。
- フィルムコミッションを通じて映画やドラマで市庁舎が使われるように働きかけ、聖地巡礼で訪ねてくる様な建物にしてはどうか。そうやって外に開かれた場所になれば、経済効果が期待できる。
- 現在は熊谷駅でのライトアップによってがん制圧月間、ピンクリボン、子宮頸がんオレンジリボンなどの啓発を行っているが、市庁舎でもできるとよい。啓発などに使えるライトアップ設備を備えてほしい。

コンセプト

◆防災

- 災害が増えているので、市庁舎には防災拠点機能が必要だと思う。荒川土手が決壊したとしてもリスク回避できる本部機能、帰宅困難者などが一時的に滞在できる避難機能、備蓄機能などを備える必要がある。1階ロビーの椅子などの備品は移動できるようにし、災害時にはスペースを作れる設えにできるとよい。
- 「防災×SDGs」で、環境にやさしく災害に強い、住み続けられるまちづくりを行いたい。
- 太陽光発電や災害用貯水タンクを設置したり、暑さにも耐えられるようにするなど、市民の安全安心の拠点として市庁舎が機能してほしい。

◆ユニバーサルデザイン

- 市内にはユニバーサルトイレが1箇所しかない。大人のトイレ介助ができるように市庁舎にユニバーサルトイレを設置してほしい。
- 20年後には熊谷市の外国人人口が増えることが考えられるので、LGBTQや国際化に対応したトイレなどの設備を整えてほしい。

◆その他

- 市庁舎の建て替えは市役所機能の集約だけを考えるのではなく、今回の建て替えを機に他の公共施設も市役所近隣に移転し、行政機能をエリアとして集約することも考えてはどうか。
- 庁舎の建て替えを機に、LRT等の交通ネットワークも再考し、スポーツ施設とのつながりなどを考えてはどうか。
- 熊谷市内を5地域をに分けて各々に役所を設置し、そこに公民館を併設することで、地域イベントや市民活動の場としたい。

◆空間・立地

- オンライン化などの影響で、将来的には市役所の業務内容や必要な規模が変化するのではないか。20年後にはスペースが余るかもしれないので、転用しやすい建物、間仕切りなどで柔軟に変えられる建物にする必要があると思う。
- 今後は人口減少やオンライン化が進むことを考えると、20年後には大きな市庁舎は必要なくなっているのではないか。規模の縮小や現状維持も考えた方が良く思う。オンライン化されて市役所に行く機会が減るのなら、市役所がどの場所にあってもあまり関係がなくなるかもしれない。
- 一度建てたら何十年も使う施設になるので、次世代、次々世代に引きつげるデザイン性や空間のある施設にしたい。
- ラグビータウンとして売り込むため、ラグビーボールを模した建物などにできると良い。
- 森林資源を循環利用するために、庁舎のインテリアを含め積極的に木材を使ってほしい。
- 歩く人が少なく商店が成り立たなくなっている状況なので、市庁舎を企業バスの結節点にしたり、熊谷駅西口改札を作って人と自転車の専用道を市庁舎まで整備することで、まちに人の流れをつくりたい。駅と庁舎とのアクセス性を高めることができるし、バスが飽和状態の熊谷駅前への解決策にもなると思う。
- 人は回遊して流れる、風も緑も流れる、緑、風、人、モノ全てにおいて留まることなく、流れを大切にすることが重要だ。”循環”という言葉コンセプトにして考えてはどうか。循環するまちは住みやすいまちだと思う。庁舎デザインも全体的に循環しやすさ、回遊しやすさを重視してほしい。

立地(評価軸について)

◆事業期間

- 建て替え事業期間が単に短ければよいというのではなく、各整備案で、どのような市庁舎をつくるのにどのくらいの期間がかかるのかを比較できると良いと思う。

◆自然環境

- 市庁舎周辺に既存の自然環境があれば良いと思うが、ない場合であっても計画時に敷地や建物に自然環境を新たにつくり出すことはできると思う。評価軸というよりも配慮事項ではないか。

◆シンボル性

- 「シンボル性」の項目で何をどう評価しようとしているのかわからない。シンボル性は立地だけで評価できるものではなく、建物のデザイン性、熊谷らしさ、アイストップなどから総合的に考える必要があるのではないか。
- シンボル性は評価軸として必要なのだろうか。アクセシビリティや使い勝手の方が重要だと思う。

◆交通利便性

- 「駅からの距離」で交通利便性を評価するよりも、まちの成り立ち、結節点、渋滞などを評価指標とした方が市民目線からは納得がいく。

◆コスト

- 建て替えコストがかからなければ良いというものでもないだろう。必要な施設ができるなら多少費用がかかっても市民は納得すると思う。各整備案でどのような庁舎をつくるのにどのくらいのコストがかかるのかを比較できると良い。

◆追加したい評価軸

- 県の施設と一緒にすると、市の独自性が出しにくくなるのではないか。「市側の意見を反映できる自由度」も評価項目に入れてほしい。
- 広い敷地なら低層も高層も可能だが、敷地が限られれば高層にならざるを得ない。低層でないと、高層でないとできないこともあるので、「敷地の柔軟性」も評価項目になると思う。
- 県と合同の建物になれば、単独の場合よりメンテナンス費用が増えるのではないか。将来的に建て替える時や県が撤退すると言った時にはどうなるのかも気になるので、「将来性」も評価してほしい。
- 移動弱者や障害者への対応は重要だ。「ユニバーサルデザイン」の視点も評価も入れておく必要があるではないか。
- 近年、想定外の災害が頻繁に起こるので、災害への予防力、順応力、転換力が市庁舎にとって一番大事だろう。周辺の防災施設との連携も含め、「防災」を評価に入れておく必要があると思う。防災は当たり前のこととして取り組むことなので、評価軸に入れない場合でもきちんと踏まえて立地を決めてほしい。
- 使えるものは使った方が良いので、新庁舎建設後に現庁舎をどのように使うことができるか、現庁舎の継続的な利用の可能性を評価する「現庁舎の利活用」も大切な評価軸だと思う。

立地(評価内容について)

◆評価全般

- 市庁舎のコンセプトが定まっておらず、市として必要な面積もわからない、整備案②では県との面積割合が不明、整備案③では場所が未定という状況では、評価が難しい項目が多く意見が出しづらい。
- 熊谷市は県の中心に位置しているなので、県の組織が熊谷市に立地するのは理にかなっていると思う。県と市の庁舎内での棲み分けが上手くできれば、整備案②では市役所単独の場合よりもより良い機能が付加されることが期待できる。
- 広さ、交通利便性、駐車場などの評価結果を見ると、整備案②が優位になる様な評価が付けられていると感じる。

◆提案

- 整備案②は、現庁舎の敷地一部に駐車場を整備して隣の公園と繋げて緑を充実させる、新庁舎と駅をつなげて回遊性を持たせるなど、まちづくりとして一体的に取り組めるのであれば、市の魅力の発信になり、夢がある良いプランだと思う。現庁舎の敷地を駐車場にすることはまちでの滞在時間を伸ばし、駐車台数の確保にもなるので、案②の付帯条件にしてはどうか。
- 整備案①か②になるのなら、新庁舎を新たな交通結节点としたい。今後高齢者が増えることを考えると、新庁舎をデマンド交通の結节点にし、そこからいろいろな場所へ移動できるようにすることで、新庁舎に常に人が集まる環境をつくり出せると思う。
- 現庁舎での建て替えは、庁舎の敷地だけを対象するのではなく、駐車場と中央公園までを含めた一体的なエリアとして考えほしい。整備案③もしくは①案として検討してはどうか。
- 整備案③は全般的な評価が低いが、将来を見越して新しい行政の拠点を再構成するのであれば、新天地に市庁舎を建設するのは意味があると思う。駅南口はあまり敷地に余裕はなさそうだが、道の駅や熊谷市立女子高校跡地など候補地はあると思う。
- 整備案③の候補として、建て替えの時期にきているショッピングモールなどの民間施設と市庁舎とを一体的に整備することが考えられると思う。

◆広さ

- 市役所として必要な機能を全て満たす面積かどうかが重要だ。整備案②では県との配分がわからないが、必要な面積が確保できないのであれば他の場所に作るのが良いと思う。スペースの確保という意味では、敷地ではなく延床で評価の方が適切ではないのか。
- 面積が広ければ評価が高くなるというわけではない。広い敷地が良いというのであれば、整備案①が○でその半分以下の広さしかない整備案②が△なのは違和感がある。

◆自然環境

- 高城神社にとっては、高層の建物が隣接するのは問題ではないか。神社に隣接するのは×の評価だと思う。
- 現在の市役所は周辺に緑が多く、環境面で優れているので、最も評価は高くなると思う。

◆シンボル性

- コミュニティひろばは現在建物がないので、オープンスペースとして眺望や開催イベントの視認性が確保でき、シンボル性を感じられるが、建物を建ててしまったら無くなってしまうと思う。整備案①と整備案②の評価が同じになっているが、案①の方がシンボル性があるのではないか。
- 整備案②の立地は、駅からも現庁舎からもどこからも見渡しがよく、目立ち、わかりやすい。シンボル性が目立ちやすさ、わかりやすさも意味するのであれば、整備案①よりも評価が良くなると思う。

◆交通利便性

- 整備案②は交通量の多い道路に面した立地なので、渋滞が発生し、周辺道路の利便性に影響を及ぼす可能性がある。そのまま右折で進入できず、車で来庁した人にはアクセスしづらい面もあるので、車の利便性が○なのには違和感がある。
- 整備案①は駅から徒歩15分で△、整備案②は駅から11分で○となっているが、4分の差で評価が変わるのは疑問だ。車で来庁する人も多いし両方○ではないか。
- 整備案③で現況では交通の利便性が悪い所に移転したとしても、将来的に市民サービスや出張サービスなどが変われば、アクセスの悪さは解決できると思う。

◆駐車場

- 整備案②は駐車場は現状より減ると思うので、評価が△なのが疑問だ。
- 整備案②では県と市の施設の両方に来庁する人がおり、更に外から来た人も楽しめる市庁舎を目指すのであれば、現状と同じ駐車台数では足りなくなるのではないかと。たとえ全体では現状より広い駐車場が確保されたとしても、県側のスペースが広がって、市側が狭くなるのではと懸念している。
- 今後手続きのオンライン化が進み「来庁しなくて済む市役所」になったり、高齢化等によって移動手段が変化することを踏まえると、将来的には駐車場の確保は重要な評価軸ではなくなるかもしれない。むしろ建て替えを機に循環バスの本数の充実や回遊性の向上を検討する方が良いと思う。

立地(評価内容について)

◆事業期間

- 整備案①では仮設庁舎の建設と撤去が入っているので評価が低いですが、新庁舎を駐車場に建てれば仮設庁舎は必要ない。それができる可能性があるのなら、評価を×にするのはおかしいのではないかと。
- 本庁舎機能を一時的に分庁舎に分散すれば仮設庁舎を建てる必要はなくなるし、17号線沿いの旧NTT跡地を活用することも考えられる。アクセスの不便さや引っ越し回数の増加といったデメリットはあるが、整備案①の評価は×とまではいかないだろう。
- 整備案③の評価が×になっているが、土地取得に時間がかかるかどうかは土地による。時間がかからない可能性もあるのだから×ではないと思う。

◆コスト

- 整備費だけをみているが、維持管理費も考えておく必要があるのではないかと。県と合同の建物になると規模が大きくなるため、維持費が高くならないかという懸念がある。
- 有、無で評価しているが、0か100かでの評価は2極すぎると思う。
- 整備案①では仮設庁舎整備費がかかるとなっているが、現庁舎の駐車場に市庁舎を建てる、仮設庁舎を転用できる造りにして売却するなど、デメリットを無くす方法は考えられると思う。
- 整備案③では、現庁舎の跡地を売却すれば新庁舎の土地取得費用をまかなうことができるのではないかと。

◆その他

- 新しい建物はハード面のみでなくソフト面も加えて考えるべきだ。
- 市と県との話し合いの内容が市民にはわからないので、施設が併設した場合に、前回出されたカフェや子どもの遊び場スペースなど、市民が期待している機能が実現できるのかという懸念がある。
- 庁舎整備とあわせて、市内の主要な施設を回遊する移動サービスを充実してほしい。オンデマンド交通などを取り入れ、庁舎に車で行けない層に対応できるようにしてほしい。

今後の進め方

◆検討の進め方

- 現庁舎の駐車場に新庁舎を建てる案を検証してほしいという意見を出したが、「こうなるかもしれない」という不確実な回答で不十分だと感じた。立地決定前にもっとしっかり検証する必要があると思う。
- 市役所のコンセプトは今後の市役所のあり方に関わるので、市民一人ひとりが市役所をどうしたいかという問題意識を持って考えるべきだと思う。
- もっとスピーディーに市庁舎の建て替えを進めてほしい。
- 同様の課題がある所もあると思うので、役所の建て替えを計画している他の自治体とも情報交換しながら進められるとよい。
- 県として北部地域をどう捉えているのか気になる。さいたま市ではなく熊谷市に県の拠点を置く意味を知事などに聞き、発言を動画などで市民に共有してほしい。

◆意見反映

- 職員の意見も踏まえて検討が進むと思うので、職員の意見がどのタイミングで、どのように計画づくりに反映されるのかなど、市の取組みが市民にわかるように示してほしい。

◆意見収集の方法(対象者)

- 庁舎で業務に取り組む職員の意見を聞くことも大切だと思う。職員ワークショップなどを通じて、若手や窓口対応の職員の意見も反映し、働きやすい環境になるとよい。
- 20代、30代の親子の意見も聞いてほしい。子どもの発想もとても重要だと思う。
- 隣接した場所に高層の建物が建つ可能性があるのなら、高城神社にも意見を聞く必要があると思う。

◆意見収集の方法(ツール)

- 熊谷市の公式メールやLINE、学校で配布されているタブレットなどを使って、若い世代や児童、生徒の意見を聞くアンケートを行ってはどうか。
- 成人式でオープンハウスを実施するという説明があったが、病院や子育て支援センターなどでもオープンハウスを開催して子育て世代の意見も聞いてほしい。